

## 【 パッチの適用方法 】

パッチ・ファイルの種類（ PSR、個別パッチ、Patch X、PSU、CPU ）

- ・ PSR (Patch Set Release)  
一定期間に作成されたバグ修正をまとめた集合パッチ  
**通常は、これだけを適用するだけでよい**
- ・ 個別パッチ  
特定のバグ修正のためのパッチ（UNIX/Linux 用のみ）
- ・ Patch X  
PSR 適用後の修正集合パッチ（Windows 用のみ）
- ・ PSU (Patch Set Update)  
重要問題に対する修正パッチ（UNIX/Linux 用のみ）
- ・ CPU (Critical Set Update)  
セキュリティに関する修正パッチ

パッチ・ファイルのオラクル社提供の一覧確認方法

※ Oracle 社からの各パッチの提供状況は、Web サイトで確認してダウンロードする

サーバーへのパッチ・ファイルの適用状況の確認方法

- ・ PSR (Patch Set Release)  
SQL> SELECT \* FROM V\$VERSION;

BANNER

```
-----  
Oracle Database 11g Enterprise Edition Release 11.1.0.6.0 - Production  
PL/SQL Release 11.1.0.6.0 - Production  
CORE 11.1.0.6.0 Production  
TNS for 32-bit Windows: Version 11.1.0.6.0 - Production  
NLSRTL Version 11.1.0.6.0 - Production
```

ここで、Version に記述されてくる値が、適用されているパッチ・ファイル番号である

- ・ 個別パッチ（UNIX/Linux 用のみ）  
\$ opatch lsinventory
- ・ Patch X（Windows 用のみ）  
記述なし

- PSU (Patch Set Update) (UNIX/Linux 用のみ)  
記述なし

- CPU (Cirtical Set Update)  
記述なし

## パッチ・ファイルの適用手順

- **PSR (Patch Set Release)**

リリース番号が大きいパッチには、それ以前のパッチの修正プログラムがすべて含まれるので、最新パッチを適用するだけでよい

適用方法は、それぞれのパッチ・ファイルで異なるので、それぞれの **README** ファイルを参照して実施すること

- **個別パッチ (UNIX/Linux 用のみ)**

個別パッチは、それぞれ独立して提供されるので、複数の不具合対応を行う場合には、必要な個別パッチを選択してすべて適用すること

「OPatch」と呼ばれる専用ユーティリティを用いて適用する

なお適用方法は、それぞれのパッチ・ファイルで異なるので、それぞれの **README** ファイルを参照してそれぞれの方法で実施すること

- **Patch X (Windows 用のみ)**

「Patch X」ファイルは、特定 **PSR** ファイルに対して提供されるので、その **PSR** の適用がされているか、事前に確認すること

リリース番号が大きいパッチには、それ以前のパッチの修正プログラムがすべて含まれるので、リリース番号が大きいパッチを適用するだけでよい

なお適用方法は、それぞれのパッチ・ファイルで異なるので、それぞれの **README** ファイルを参照してそれぞれの方法で実施すること

- **PSU (Patch Set Update) (UNIX/Linux 用のみ)**

「OPatch」と呼ばれる専用ユーティリティを用いて適用する

「PSU」ファイルは、特定 **PSR** ファイルに対して提供されるので、その **PSR** の適用がされているか、事前に確認すること

リリース番号が大きいパッチには、それ以前のパッチの修正プログラムがすべて含まれるので、リリース番号が大きいパッチを適用するだけでよい

なお適用方法は、それぞれのパッチ・ファイルで異なるので、それぞれの **README** ファイルを参照してそれぞれの方法で実施すること

- **CPU (Critical Set Update)**

なお適用方法は、それぞれのパッチ・ファイルで異なるので、それぞれの **README** ファイルを参照してそれぞれの方法で実施すること